

敬天新聞社様

先日投稿した「北里大学病院小児科医師石田倫也による飲酒運転の原因隠蔽事件」に関して、これまで潜んでいた恐るべき企みが新たに判明した。

本学の一部理事、監事は、事件発生当初より逮捕された石田倫也医師の警察署での供述内容に符合させた形で飲酒運転の原因を捏造し、「前夜自宅での飲酒」、即ち個人の責任に帰すものとして執行部の責任回避を図ってきた。主任教授をはじめとした所属医師全員参加の公的行事、「小児科医局会での深酒、その後の泥酔運転黙認」が公になると、赤星透常任理事、海野信也病院長をはじめ本部藤井清隆理事長等に連帯管理者責任が及ぶ事態を恐れた赤星、海野が、仲間の北里英郎医療衛生学部長、奥野善彦監事等と共に謀して隠蔽工作を推し進め、学校法人理事会をも巻き込んだ事実隠蔽を画策したのである。あつてはならない隠蔽工作が許される背景には、藤井清隆理事長の日和見、保身第一主義も存在する。本学では、つい最近科学研究費補助金不正事件を執行部ぐるみで隠蔽した挙句、それが暴露されて読売新聞をはじめとしたマスコミから叩かれ、所轄庁からは強い叱責を受けた末、理事長以下が渋々頭を下げて何とか事態を鎮静化させたつもりとなつてほくそ笑んでいたところである。しかしながら、喉元過ぎて熱さを忘れた頃、医師として、教育者としてあるまじき泥酔運転事故発生を知った瞬間、自らの保身が頭をもたげて再び隠蔽工作に手を染めたのである。

そしてその過程には、学校法人理事会を舞台とした隠蔽工作と並んで、善意の事故通報者を脅迫して隠蔽幫助に引きずり込むという恐るべき企みが潜んでいたのである。

事件を報じた記事にある通り、石田は様子を見に来た男性二人を急発進させた自動車ではね、負傷させた。そしてたった今自分等をはねた石田の自動車がタクシーと軽乗用車に追突したのを見て、110番通報したのもこの二人なのである。実は、この二人こそ本学大学院の技術職員だったのである。

その事実を知った赤星は、事件の真相が外へ漏れる事態を恐れて、自らの保身目的でこの二人の口封じを企んだのである。そのため、密かに二人の動向調査を興信所に依頼して解雇できるような醜聞を探ってみたそう。しかしながら二人にそんなものある分けがない。何の落ち度もない善意の職員の個人動向について探る行為は卑劣そのものであり、果たして許されるものであろうか。赤星の卑劣な企みこそ懲戒そのものである。隣国韓国での大韓航空ピーナツリターン事件、会社幹部による事実捏造、隠蔽工作と同根である。そこには権力の魔力に取りつかれて、その地位にしがみつくだけの汚れきった無能人間の姿があった。

そして今日（12月19日）開催の学校法人理事会において、急遽石田倫也の諭旨退職が決議された。本来は11月21日開催の学校法人理事会において懲戒処分を決議すべきであったものを、その時点では隠蔽が成功するとの甘い見通しに安堵してか、またはこれまで飲酒運転の事実を知りながら見て見ぬ振りしてきた自らの責任問題への発展を恐れてか、懲戒処分については議題にすら上がっていなかった。その目論みが挫折した今になって懲戒処分を決議し、再び上手く取り繕ったつもりになっているのであろう。

本学の現実を如実に反映する事態がこれ等であつて、このように汚れきった人間共が本学を牛耳っているのである。本学の普通の教職員は皆ほとほとうんざりしている。今回の一連の出来事は氷山の一角でしかない。保身しか頭にない執行部、中でも禁じ手にさえ平気で手を染める赤星、海野、藤井、北里、奥野等を本学から排除せねばならないということが、良識派、普通の教職員の総意である。

本学がせめて普通の大学になるために、ご支援を下さるよう宜しくお願いいたします。

北里大学理事、教職員一同